

2007年度

(平成19年度)

海外技術研修員等 研修報告書



パラグライダーと鳥取砂丘

鳥 取 県

はじめに

海外技術研修員受入事業は、将来を担う海外の青年を「海外技術研修員」等として招き、必要な技術を習得していただくものです。母国の発展に貢献する人材を養成するとともに、県民との友好親善を図ることを目的としています。

鳥取県では1987年度、友好関係にある中国河北省から「農業研修生」「緑化研修生」として5名を受け入れて以来、2006年度までにブラジルから29名、中国から121名、モンゴルから16名、パラグアイから1名の合計167名を受け入れてまいりました。

このほかにも「韓国江原道行政実務研修生」「外務省長期青年招聘事業研修員」「国際協力機構（JICA）自治体連携研修員」として来県した研修員も5カ国22名に上ります。また、ブラジルからの県費留学生も2006年度まででのべ55名となり、自治体レベルでの国際協力は着実に進展しております。

本年度は海外技術研修員としてブラジルから1名、モンゴルから1名の合計2名が、6か月から10か月の間、県内の関係機関で研修を受けました。

海外の地方自治体職員が日本の地方行政のノウハウなどを習得するための自治体職員協力交流事業では、1996年度から2006年度までにベトナム、韓国、マレーシア、中国から合計19名を受け入れております。本年度は、中国から1名が来県され、鳥取県庁において研修を行いました。

これら研修員の皆さんは、言葉や気候・生活習慣の違いという壁もありましたが、研修機関の熱心な御指導もあり、技術・知識の習得に励むことができました。また、研修期間を通じての日本語学習のほか、県内および国内各地を訪れ、日本文化への理解を深めるとともに、県民との交流に努められました。

帰国後は、研修や勉学の成果を十分に活かし、母国の発展に貢献するとともに、わが国との友好の架け橋となってくれと期待しております。

この報告書は、研修員が学んだ内容や日本や鳥取県の印象などをまとめたものです。研修員の皆さんの意気込みと成果を読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり御協力いただきました関係機関の皆様に、厚くお礼申し上げます。

2008年3月

鳥取県文化観光局交流推進課長 山本仁志

目 次

平成19年度海外技術研修員等一覧.....	2
海外技術研修員.....	3
ミアン ハルミ キノシタ（ブラジル）.....	4
バルジンニヤム バトソーリ（モンゴル中央県）.....	12
自治体職員協力交流研修員.....	19
杜春紅（ドウ チュンホン）（中国吉林省）.....	20
名 簿.....	35
海外技術研修員.....	36
中国河北省技術研修生.....	38
中国河北省農林漁業研究者.....	38
中国河北省農業研修生・緑化研修生.....	39
中国黒竜江省農業研修生.....	41
韓国江原道行政実務研修生.....	41
自治体職員協力交流研修員.....	42
外務省長期青年招聘事業研修員.....	42
国際協力機構（JICA）自治体連携研修員.....	43
ブラジル県費留学生.....	43

平成19年度海外技術研修員等一覧

1. 海外技術研修員（2名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
ブラジル	ミリアン ハルミ キノシタ	女	34	福祉保健	県立総合療育センター	H18.6 ～ 19.3
モンゴル (中央県)	バルジンニヤム バトソーリ	男	30	農業	県立農業大学校 園芸試験場	H18.4 ～19.9

2. 自治体職員協力交流事業（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
中国 (吉林省)	杜春紅 (ドウ チュンホン)	女	23	商工行政	鳥取県産業開発課	H18.5 ～ 19.3

海外技術研修員
(ブラジル、モンゴル中央県)

1 研修員プロフィール



氏 名 ミリアン ハルミ キノシタ
年 齢 34歳
国 籍 ブラジル
出 身 パラナ州カスカベル市
研修分野 福祉保健

2 研修機関の概要

機関名 県立総合療育センター 米子市上福原7-13-3
代表者 県立総合療育センター院長 北原 侑
指導者 県立総合療育センターリハビリテーション部主任理学療法士
水上 慎一

3 研修経過

月 日	研 修 内 容
2007. 6. 20	来日 (成田空港)
6. 21	日本語研修開始 (島根県松江市:しまね国際センター)
7. 27	日本語研修発表会・閉講式
8. 1	専門研修開始 (米子市:県立総合療育センター) (~2/22)
8. 4	ブラジル交流団体連絡協議会主催の歓迎会に出席 (鳥取市)
8. 6	県庁表敬訪問・国際交流財団訪問 (鳥取市)
8. 20	通園「のびっこワールド」研修 (療育センター) (~8/31)
9. 3	作業療法研修 (療育センター) (~9/14)
9. 19	国内研修旅行 (東京) (~9/20)
9. 25	通所「ハッピーフレンド」研修 (療育センター) (~10/5)
10. 9	言語療法研修 (療育センター) (~10/19)
10. 13	和牛博覧会でブラジル友好協会出店を手伝う (~10/14)
10. 17	県立鳥取盲学校見学 (鳥取市) ブラジル友好協会主催歓迎会出席 (鳥取市)
10. 25	全国肢体不自由児療育研究大会 (米子市) (~10/26)
10. 29	心理療法研修 (療育センター) (~11/2)

11. 2	スポット研修（米子市：養和病院）（～11/16）
11. 19	理学療法（療育センター）（～2/22）
11. 24	上田法治療研究会学術集会（福岡）（～11/25）
12. 3	スポット研修（三朝町：三朝温泉病院）（～12/7）
12. 23	国際交流財団主催「国際交流の集い～世界のクリスマス～」参加
2008 1. 30	鳥取大学病院医学部附属病院見学（米子市） YMCA 米子医療専門学校見学（米子市）
3. 6	県庁研修（鳥取市）
3. 12	県議会議長、副知事に帰国前表敬
3. 13	研修修了式・送別会（鳥取市）
3. 16	離県（米子空港） 帰国（成田空港）

4 研修報告

（１）はじめに

月日の経つのは早いもので、私の研修は終わりをむかえました。鳥取県海外技術研修生として、リハビリテーションの分野で10ヶ月間研修をいたしました。このような機会をいただき、鳥取県をはじめ、お世話になりましたみなさまに、心から御礼申し上げます。

（２）日本語研修

日本に来てはじめての1ヶ月、私は島根県松江市で日本語研修をしました。しまね研修館に他の外国人と一緒に宿泊して、日本語を集中的に勉強しました。クラスは3人で、私の他には、中国人が2人でした。授業は朝9時から夕方4時まででありました。私にとって、共同生活は初めての経験でした。研修館にはブラジル人、ロシア人、韓国人、中国人がいました。最後の週にはアメリカ人も加わりました。私の日本の生活は、世界の人々と出会うことからはじまりました。共同で使う場所は、当番を決めて研修生が順番に掃除をしました。食事も各自で作ります。そこで日本で生活するための基礎も学びました。

授業は大変でした。宿題をするのに5時間かかったこともありました。梅雨の時期だったので、毎日雨が降り、暗い日が続きました。狭くて暗いので、私はとても不安でし

た。研修館の仲間、そして先生と一緒にその不安を乗り越えました。先生はいつも明るく元気に日本語を教えてくださいました。共通の言葉がなくても、私たちは一緒に泣いたり笑ったりしました。異なった国や文化をもつ人々と研修館で過ごしたことは、素晴らしい経験でした。私の心はとても豊かになりました。

(3) 県立総合療育センター

専門研修では、7ヶ月間リハビリテーションの分野で研修を行いました。“総合療育センター”で障害のある子どもたちの訓練などを通して、たくさんのことを学びました。理学療法(PT)、作業療法(OT)、言語療法(ST)、心理療法の研修をしました。集団訓練(わくわく教室、がやがやクラス)や通園(のびっこワールド、ハッピーフレンド)の研修もしました。リハビリの様子を見学をしたり、わ



からないことを質問しながら学びました。ブラジルで取り組んでいた方法とほとんど同じだったので、すぐに一緒にリハビリをすることができました。センターの会議や学会の見学もしました。内容を全て理解することはできませんでしたが、組織全体のことや学会全体のことを知ることができました。難しいことがたくさんありましたが、良い勉強になりました。日本は、地方でも医療器具、介助器具がとても充実しています。ブラジルでは大都市の病院にそういった設備があるだけです。また、薬の処方についても違いがあり、とても勉強になりました。



障害のある子どもたちや保護者の方々とお話することが何よりも素晴らしい経験でした。子どもたちのリハビリをするだけでなく、その子どもを支える家族のために

アドバイスをしたり、相談にのったり、家でできるリハビリの方法を教えます。センター内の仕事のほかにも、送迎バスに乗って、子どもたちの家に迎えにいきました。また、社会見学では、大山みるくの里やトムソーヤ牧場に一緒にいきました。慣れてくると、子どもたちの中には、自分から話しかけてくれる子もいました。一緒に話しをして笑いました。子どもたちの笑顔が忘れられません。療育センターでずっと生活をする子どもたちもいます。だからこそ、センターは、とても明るい雰囲気できれいな建物なのだと思います。

(4) 国内研修旅行

9月に1泊2日で東京へ行きました。中国人研修員の杜さん、モンゴル人研修員のバトソーリさん、そして国際交流財団の内藤さんと一緒に行きました。この研修旅行の目的は「日本文化」を知るためです。浅草、秋葉原、六本木などを訪れました。特に六本木のサントリー美術館で開催されていた「屏風～日本の美～」の展示会はとても素晴らしいものでした。一番感動したのは、両国国技館の相撲見物でした。今までテレビで見るだけだった相撲を、実際に自分の目で見て、自分の耳で聞くことができました。今でも、力士のぶつかり合う音や、観客の拍手の音が聞こえてくるようです。



(5) 県立鳥取盲学校見学



目が見えない人がどのような場所で、どのように勉強をしているのかを知るために行きました。療育センター以外の場所で、障害がある人々が行く場所を見たいという希望から、この学校見学の機会をいただきました。

先生と生徒は一緒に活動をしします。歯磨きやシャワーなど、日常生活の練習や、校内にある畑で野菜を育て、収穫します。点字やパソコンの勉強もします。社会にでてから、仕事ができるように、マッサージや鍼灸の資格をとるための勉強もしています。目が見えないから、社会と離れて暮らすのではなく、社会のひとりとして働き、幸せに生活する…それは当たり前でとても大切なことだと思いました。このような施設があることはすばらしいと感じました。

(6) 養和病院

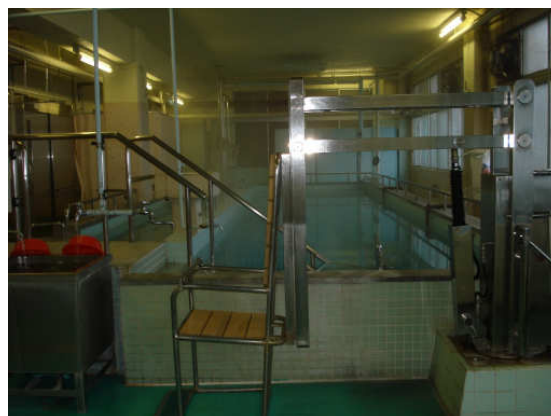


養和病院では、2週間研修をしました。”病院”でのリハビリの役割を学びました。リハビリの方法はブラジルのものとほとんど同じだったので、日本語の言葉がわからなくても、見れば分かりました。病院というと、忙しくて冷たい印象がありましたが、養和病院は温かくてゆったりとしていました。患者さんは幸せそうでした。病院では、ベッドの上で食事をするのはほとんどありません。食堂に行って、他の人と一緒に食べます。話をしたり、テレビを見たり、カラオケをしたり、まるで家にいるみたいです。病院に「砂場」がありました。夕方になると、近所の幼稚園の子どもたちが来て、患者さんと一緒に遊びます。とても幸せそうでした。

訪問サービスにも、一緒に行きました。私はブラジルでも同じような仕事の経験がありました。ブラジルに帰ったら、また訪問の仕事をしたと思います。今までとは違ったものの見方ができると思います。

(7) 三朝温泉病院

日本には温泉がたくさんあります。私は温泉療法の研修をする機会をいただきました。1週間、三朝温泉病院で研修をしました。患者さんは70歳以上のお年寄りの方々がほとんどでした。90歳を超える方が元気にリハビリをする姿に驚きました。病院には温泉プールがあります。プールの中をゆっくりと歩きます。私も一緒に入って歩きました。しかし、私は10分で疲れてしまいました。



おじいさんやおばあさんは、まだまだ元気に歩いているのに、私は休憩をしていました。病院では、医師と理学療法士と一緒に、患者さんを診てまわりました。温泉とリハビリを組み合わせることは、とても効果があると思いました。

温泉の効果を実際に体験することもできました。私は湯治宿に宿泊しました。毎日朝と夜に温泉に入りました。そのおかげで、肌はつるつるになりました。体もいつまでもぽかぽかと温かかったです。三朝温泉はとても美しいところでした。



(8) やさしい気持ちとリハビリ

今まで、私がブラジルで行っていたリハビリと療育センターやその他の施設で見てきたことから、私は次のように思いました。リハビリの方法には、最高のもも最低のももありません。1人1人状況が異なっています。その人の生活の質が良くなるような方法を見つけ、優しい気持ちをもって、一緒にリハビリをすることが大切だと感じました。日本に来る前は、日本とブラジルのリハビリは全く違うものだと思っていました。しかし、その方法はあまり変わりませんでした。大きな違いは、日本での患者さんへの接し方には心がこもっていたことです。それはブラジルではあまり見られない光景でした。

研修の中で一番大変だったのは、言葉でした。文化の違いや習慣の違いはありましたが、そのおかげで、私の10ヶ月の滞在は、より豊かなものになりました。研修や日常生活、旅行など、日本で過ごした中で学んだことは数えきれません。その中で何よりも私の心に残っているのは、“心遣い”です。この、相手を思いやる気持ちは、日本人の、そして、日系人のすばらしいところだと思います。計画を立て、その通りにみんなが行動する、時間を守る、何かあったら必ず連絡をする…。相手を気遣う気持ちがあるから、そういう行動が自然にできるのだと思います。みなさんにとって当たり前のことかもしれませんが、ブラジルでは自分のことを一番に考えるからなのか、相手を気遣う文化がありません。そのために、ストレスを感じる場合があります。

ブラジルに帰っても、日本人の心とやさしい気持ちで人に接したいと思います。そして、相手を尊重することの大切さを伝えたいです。

(9) 日本人の血

私はずっと、自分の起源を知りたいと思っていました。私は日系3世ですが、日本に来たのは、今回が初めてでした。日本で生活をして、いろいろな日本と日本人の心を知ることができました。ブラジルにいる間、祖母や母から色々な日本の話を聞いたり、生活習慣を見ていました。その当時は意味が理解できませんでした。日本でも、多分お年寄りだけがしていると思っていました。しかし、日本で生活をしてよく分かりました。小さな子どもからお年寄りまでみんなが、“日本の心”を持っていました。

ブラジルの私の家には、母の好きなものがたくさんあります。一般的なブラジル人家庭ではあまり見られないものです。栗を食べたり、ツツジやナンテンを育てたり、部屋

で金魚を飼ったり…。なぜ、母がそのように家を飾るのか、私は不思議でした。その答えは倉吉にありました。私は縁あって、祖先のふるさとを訪れることができました。今まで、私の親戚といえば、ブラジルの中だけのことでした。しかし、鳥取県で加藤さんと山脇さんに出会いました。私の親戚です。加藤さんの家に行きました。そこには私がブラジルで見ていたものがたくさんありました。私は感動しました。親戚の小さな子どもたちの顔は、ブラジルにいる私の祖父の顔によく似ていました。血のつながりを強く感じ、とても驚きました。こうして出会えたことに感謝しています。そして今、私にも日本人の血が流れていることをしみじみと感じています。私はふたつの国の心を持っています。日本での経験はこれからの私の人生の道しるべとなりました。



(10) おわりに

最後に、この研修でお世話になりました全ての方々に、心から感謝を申し上げます。みなさまのおかげで、とても充実した研修となりました。これからは、私も、ブラジルと鳥取県のために、少しでも役に立つように、頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

1 研修員プロフィール



氏 名 バルジンニヤム バトソーリ
 年 齢 30歳
 国 籍 モンゴル
 出 身 ウブス県サギル町
 派遣元 モンゴル中央県産業インフラ環境対策調整部
 研修分野 農業（野菜栽培）

2 研修機関の概要

機関名	鳥取県文化観光局	鳥取市東町一丁目220
	鳥取県立農業大学校	倉吉市関金町大鳥居1238
	鳥取県園芸試験場	東伯郡北栄町由良宿2048
	鳥取県園芸試験場弓浜砂丘地分場	境港市中海干拓地27
	鳥取県園芸試験場日南試験地	日野郡日南町阿毘縁1203-1

代表者	鳥取県文化観光局長	衣笠 克則
指導者	鳥取県文化観光局交流推進課長	山本 仁志
	鳥取県立農業大学校長	真山 育雄
	鳥取県園芸試験場長	齊藤 哲
	鳥取県園芸試験場弓浜砂丘地分場長	福本 明彦
	鳥取県園芸試験場日南試験地長	小林 弘昌

3 研修経過

月 日	研 修 内 容
2007. 4. 21	来日（成田空港到着）
4. 23	日本語研修を開始（しまね国際センター）
5. 30	日本語研修発表会・閉講式
5. 30	農業大学校での研修を開始。倉吉市長を表敬訪問
6. 28	第一回意見交換会（農業大学校）
7. 5	第二回意見交換会（農業大学校）
8. 20	モンゴル国内閣官房長官来県に伴う知事歓迎会に参加（鳥取市内）
8. 21	園芸試験場日南試験地での研修を開始
8. 31	園芸試験場弓浜砂丘地分場での研修を開始
9. 10	園芸試験場本場での研修を開始

9. 14	実地研修をすべて終え、鳥取市内へ移動 交流推進課にて研修報告まとめ（～28日）
9. 19	鳥取県国際交流財団主催の研修旅行で東京へ（～20日）
9. 25	副知事に帰国前表敬
9. 28	研修修了式、意見交換会に出席
9. 30	離県
10. 1	成田空港より帰国

4 研修報告

皆さん、こんにちは。

私は、2007年4月から9月まで、日本の野菜栽培技術や保管方法について鳥取県で約6カ月間の研修（うち約1ヶ月間は島根県で日本語研修）をしました。

（1）松江での日本語研修

最初の1カ月間は、島根県松江市で日本語の初級研修をしました。日本に来る前に日本語の勉強はあまりできなかったもので、ここでの日本語研修は大変有意義なものとなりました。もちろん、はじめはわからないことばかりで大変だったし、家族と離れ寂しい時もありましたが、振り返ると面白くて楽しかったなと思います。ここで、最初に自己紹介を覚え、簡単な日常会話の勉強をしました。

（2）農業大学校での研修

農業大学校の野菜科で約2ヶ月半研修をしました。最初は長いと思いましたが、あっという間に終わりました。20m×6mのハウスを担当し、主にトマト、ミニトマトの栽培技術について研修しました。また、ホウレンソウ、シロネギ、ゴボウ、ミズナ、ブロッコリーなどの栽培方法や世話の方法について学びました。ハウスは暑くてすごく汗をかきました。私の誕生日には、農業大学校の学生と流しソーメンを作って食べました。とてもおいしかったです。

（3）園芸試験場・日南試験地での研修

高山地でトマトのハウス栽培技術の他、ピーマン、シロネギなどの露地での栽培・世話の方法について研修しました。日南では富田さんのお宅でホームステイをしました。とても優しくて、たくさんおいしいご飯をつくってくれました。野菜も

いっぱい使った料理でした。日中は涼しかったのでよく眠れたせいもあり、2kg 太りました。

(4) 園芸試験場・弓浜砂丘地分場での研修

砂丘地でシロネギ、ニンジン、サツマイモの栽培・世話の方法について研修しました。毎日、福本分場長に米子のホテルから送り迎えをしてもらいました。皆、親切でとてもよかったです。

(5) 園芸試験場・本場での研修

ブロッコリーの栽培研修の他、イチゴの新品種を出しているところを視察しました。楽しかったので、研修日数が短かったのが残念でした。

(6) 全体の研修内容

主にトマトを専攻とし、栽培方法や機械の技術について研修しました。他にもハウレンソウ、ミズナ、ピーマン、ナス、シロネギ、イチゴ、ゴボウ等の野菜の栽培技術、土壌成分 PH、動植物堆肥の作り方、土壌の化学的成分による堆肥の使い方、土壌作り、薬や農薬の使い方などについて学びました。農業作物の販売についても研修することができました。ハウスでの栽培や露地での栽培面積がそれほど大きくないのでトラクター耕うん機、ロータリーエンジン耕うん機、油圧耕うん機、自動耕うん機などの様々な小型機械が使われていました。灌水には、プラスチックやビニールの灌水チューブがよく使われていました。ハウスはガラスやビニールの2種類で大きさは様々でした。あるハウスは温度を管理する機械や、人工土壌の PH を確認し、肥料を追加する機械が設置されていました。他にもハウスや露地での栽培期間に土壌温度の上がり過ぎ、下がり過ぎを防ぐために、白色や黒色のマルチが使われていたり、雑草を除去するために化学肥料も使われていました。夏の時期は、紫外線は苗の定植に悪影響を及ぼすので、ハウスを黒色の敷物で覆っていました。

農家の方が、収穫後に作物を梱包したり、JA やスーパーに出していました。JA には野菜ごとにシロネギ、トマト、スイカ、ジャガイモというように分けて出していました。種、苗、土壌、肥料、薬、機械、農機具、作業服などの専門店があり、どんな薬がどんな植物に適切か、どんな時にどうやって使うかなどについて説明も書いてあり、生産している一般農家にとっては使いやすく便利だと思いました。

5 感想

滞在中は、研修ばかりでなく、日本の、そして鳥取県の美しい自然、歴史、文化、技術、スポーツなどに触れる機会がたくさんありました。

農業大学校の野菜科の学生たちと大山の頂上まで登ったり、花回廊、鳥取砂丘などに行きました。また、瀬戸大橋や東大寺を見たり、境港で釣りもしました。東京への研修旅行もあり、両国国技館ではモンゴル力士を応援することができました。大好きな横綱白鵬が負けた時には、座布団を投げました。大変感動しています。他にも秋葉原や浅草、サントリー美術館に行ったり、隅田川遊覧もしました。

日本の食べ物は、最初は甘いと感じましたが、すぐに慣れ、寿司や刺身、うどんなど美味しくて好きになりました。沖縄の料理も食べました。

また、日本語は、ちょっとよろしいですかと尋ねるときに使う「すみません（すいませんと言う人が多い）」とタバコを吸わないときに使う「吸いません」など、発音が同じなので難しいです。また「ちょんぼし」などの辞書にはない鳥取県の方言もあり、余計に難しいですが、よく使うので覚えました。

6 今後の目標

帰国後は鳥取県で研修した中で、まずは簡単に取り入れられることからやっと思っています。その後は予算的なことも検討した上で、中央県に取り入れていきたいと思っています。中央県で鳥取県での野菜研修を活かしていきたいです。

皆様のお陰で研修を無事に終え、帰国します。今回の私の研修期間、いろいろとお世話になった鳥取県交流推進課、農業大学校の先生方および園芸試験場の皆様、鳥取県国際交流財団の皆様に心からお礼申し上げます。鳥取県の美しい自然、文化、習慣などをモンゴルの人々に写真を見せながら伝えたいと思います。

皆さんも是非モンゴルに遊びに来てください。心からお待ちしております。

最後になりますが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



トマトの苗を植える（農業大学校）



運転も上手くなりました



トマトの収穫（農業大学校）



ニンジンの種蒔き（園芸試験場）



誕生日に流しソーメンを学生と（農業大学校）

自治体職員協力交流研修員
(中国吉林省)

1 研修員プロフィール



氏 名 杜春紅 (ドウ チュンホン)
 年 齢 23歳
 国 籍 中 国
 出 身 中国吉林省
 研修分野 商工行政

2 研修機関の概要

機関名 鳥取県商工労働部 鳥取市東町一丁目220
 代表者 鳥取県商工労働部長 門前 浩司
 指導者 鳥取県商工労働部産業開発課長 中山 孝一

3 研修経過

月 日	研 修 内 容
2007. 5. 20	来日 (成田空港到着)
5. 21	開会式、オリエンテーション (東京都内)
5. 22	東京都内観光 (国会議事堂、東京証券取引所)
5. 24	日本語研修開講・オリエンテーション (全国市町村国際文化研修所・滋賀県大津市)
5. 26	スタディーツアー (琵琶湖博物館見学、石山寺、信楽焼体験)
6. 9	京都市内観光 (二条城、金閣寺、清水寺、西陣織見学)
6. 20	日本語研修最終発表会、クラスで第三名受賞
6. 21	閉講式、滋賀県を離れ鳥取県に移動
6. 22	県庁交流推進課、鳥取県国際交流財団へあいさつ。外国人登録
6. 25	入県時オリエンテーション (~26)
6. 27	商工労働部にて専門研修開始
6. 27	産業振興戦略総室企業立地チームで研修 (~11. 14)
6. 27	施設見学 (かろいち、かにっこ館、倉吉未来中心センター、赤瓦等) (~28)
6. 29	交流推進課で研修、県立博物館、やまびこ館、市立図書館を見学

7. 2	鳥取県産業振興機構と JETRO で研修（～6）
7. 11	鳥取県地域産業活性計画に係る意見交換会に参加
7. 12	県庁各部の事業概要を聞く（～17）
7. 17	「第 12 回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット実務代表者会議」で吉林省代表団に随行（～20）
7. 26	「鳥取貿易支援センター全体会議」に参加
8. 3	「境港利用促進懇親会」にて、PR 方法を勉強。「鳥取県東京ビジネスオフィス」と都道府県会館を見学
8. 6	財団法人鳥取県産業振興機構で、吉林博覧会出展業務の補助（～10）
8. 7	台湾企業との貿易促進のために、打吹公園だんこ、千代むすび企業を訪問
8. 11	「第 4 3 回鳥取しゃんしゃん祭」に参加
8. 16	新事業開拓チームで研修（～31）
8. 16	新事業開拓チーム全体、経営革新計画の事業説明を聞く
8. 17	経営革新計画実施状況調査、梅津酒造有限会社企業を訪問
8. 20	株式会社サングルメの子会社ニチロを訪問、鳥取大学乾燥地研究センターを見学
8. 21	米子空港ビルと友森工業を訪問、水木しげるロードを見学
8. 23	県庁職員環境研修
8. 24	地域産業資源活用の事業概要説明を聞く
8. 28	商工労働部新規配属職員の研修（三洋、千代三洋、ハローワーク見学、政策施策討論会等）（～29）
9. 3	企業誘致推進チームで研修（～10. 10）
9. 7	コカコーラウエスト大山プロダクツ（株）の起動式に参加
9. 19	財団主催研修旅行（～20）
9. 19	大相撲観戦、浅草、水族館見学
9. 20	江戸風鈴作り体験。秋葉原、東京アニメセンター、六本木散策、サントリー美術館を見学
9. 26	県議会傍聴
10. 9	企業誘致のため姫路方面企業の竹原化学工業、デービー精工を訪問
10. 10	日工、内外ゴムを訪問、姫路城を見学
10. 11	企業立地チームで「鳥取技術フェア」の出展業務補助（～11. 14）
10. 16	県庁火災防御訓練
10. 18	中間研修（成果発表会、交流会、都内視察）
10. 24	産官学連携フェスティバル 2 0 0 7

10. 26	「環日本海時代の「人財」づくりと「とっとり」発液晶産業の未来」
11. 2	「とっとり発地域ブランドフェア 2007～第 13 回とっとり産業技術フェア～」を手伝う（～4）
11. 6	鳥取地域経済活性化フォーラムに参加
11. 11	第 5 回鳥取県総合芸術文化祭にて、物語「淀屋」と「里見」観賞
11. 14	産業開発課で研修（～3.14）
11. 18	国際交流フェスティバルで、出展ブースを手伝う
11. 29	南家商事、内田スプリング制作所訪問（中小企業の支援制度を紹介）
11. 30	「地域団体商標制度」及び「小売など役務商標制度」説明会に参加
12. 6	産官学連携フェスティバル実行委員会を傍聴
12. 11	知的財産事業の説明を聞く
12. 14	補足研修（～3.14）
12. 14	生活環境部循環型社会推進課で研修（～17）
12. 14	事業説明を聞き、生産現場を見学（環境コンポストセンターいなば、境啓発施設リファーレンいなば、因幡環境整備株式会社、ごみ処理施設クリーンセンターやず）
12. 17	水・大気循環課で研修、施設見学（鳥取衛生環境研究所、倉吉保健所、天神川浄化センター）
2008. 1. 7	税務課で、税金の説明を受ける（法人所得税、個人所得税を中心に）
1. 16	「国際電子部品商談展」に参加、東京ビッグサイトを見学
1. 23	教育委員会で教育事情勉強、教育現場東高等学校を見学
2. 7	「中国地域新技術・新工法展示商談会」に参加、豊田本社を見学
2. 10	西日本雪合戦の応援
2. 12	吉林企業との取引案件発掘のために、JETRO 業務の勉強、企業訪問への随行（～14）
2. 12	田中製作所、気高電機を訪問
2. 13	「鳥取県経営革新大賞」受賞企業のウメカワを訪問
2. 14	安田精工を訪問
2. 25	住宅政策課で政策を聞く
3. 12	県議会議長、副知事に帰国前表敬
3. 13	研修修了式・送別会にて研修成果発表
3. 15	離県
3. 16	関西空港より帰国

4 研修報告

I. はじめに

私は「中国吉林・北東アジア投資貿易博覧会」事務局に勤めております。国の東北振興策により、吉林省は博覧会を通して、海外からの企業誘致に真剣に取り組んでいます。多くの企業を吉林に理解してもらうために、事業起業、販路拡大意欲のある日本企業に情報を提供したり、たくさんの日本企業を博覧会に誘致したりというような両国企業間の貿易取引、投資を促進する仕事です。でも、工作中、能力不足と情報の足りないことを実感して悩んでいました。日本は戦後に驚異的な経済成長を遂げ、20年余りの期間で、世界先進国の行列に入りました。こんな国でこそ、企業誘致、貿易にどんな政策を取っているか勉強したい、仕事で活用したい気持ちになりました。やっと、自治体職員協力交流事業で来日、友好交流関係の鳥取で商工労働分野の研修のチャンスをいただき、嬉しい限りです。一生懸命勉強することを決心しました。

II. 研修概要

(1) 全体研修

A. 東京研修

5月20日に来日、世界各国の研修員と一緒に東京の総務省でオリエンテーションに参加し、日本の地方自治体について講義を受け、日本の国会議事堂と東京証券取引所を見学しました。初めての日本は、緑や木、青い海に囲まれた非常にきれいな島国で、大変感動し、見るものすべてに新鮮さを感じました。

B. JIAM 研修

5月23日に、滋賀県大津市にある全国市村町国際文化研修所（JIAM）へ移動して、一ヶ月間日本語や日本の伝統文化、食事の礼儀、地方行政制度を学びました。毎日、日本語のテストと宿題があるので、ストレスを感じましたが、日本語の実力はすごく向上したと思います。日本語の勉強以外には、日本の最大の湖である琵琶湖、琵琶湖博物館、金閣寺、清水寺、二条城、宗陶苑を見学しました。また、京都大学でアンケートを実施し、6月21日に発表しました。クラス六人が協力して京都大学生にアンケートを行い、その成果を発表することは今までの人生の中で、新しくすばらしい体験でした。

最初の一ヶ月の全体研修は各国の研修員たちと一緒に生活し、専門研修がうまく進められるようにいろいろ準備しました。まず直面するのは違う文化の間のカルチャーショックと一人暮らしの寂しさの問題です。これらに対応するために、スタッフたちは異文

化理解交流会を開き、日本で生活する必要な常識、心理学の知識を教え、施設見学を実施してくださいました。このようなさまざまな勉強を通して、ホームシックなどの問題を克服し、異文化を無偏見、積極的に受け入れられるようになり、だんだん日本になれてきて、過渡期を穏やかに過ごしました。

C. 秋季研修

10月18日に、研修員全体が再度東京に集合し、それぞれの研修情報を交換しました。中間研修として行われた成果発表会では、久しぶりにみんなは最高の笑顔を見せ、お互いの研修成果と生活経験を分かち合い、そして、励まし合いました。報告の後は、江戸東京博物館、浅草のお寺を見学して、日本の文化と歴史への理解を深めることができました。

全体研修は、各国の研修員との最高の思い出の場となりました。今思ったら、その時は人生の中で、一番楽しい時間でした。さらに、日本のほかの国のことも分かり、異文化や国際交流への理解を深めてきました。

(2) 専門研修

6月の末から、鳥取県での本格的な研修が始まりました。まず、県政全般を理解するための全般研修を受けました。福祉保健部や県議会を初め、各部事業概要を聞いたり、見学に行ったりしました。その後、主に、商工労働分野についての専門研修を行いました。

A. 産業振興戦略総室

産業振興戦略総室は産業立地政策チーム(地域産業活性化)、新規事業開拓チーム(企業の経営革新、地域資源育成支援、チャレンジ応援資金)、企業誘致推進チーム(企業誘致、大規模企業進出調整、企業立地に関する補助・融資)、雇用・人材確保チーム(有効求人倍率改善、UIターン対策)に分かれています。それぞれのチームの政策を勉強したり、一緒に企業訪問に行ったりしました。企業誘致、障害者雇用、研修生制度のことに特に関心を持ち、重点的に勉強しました。

B. 産業開発課

産業開発課では、研究開発支援、人材育成支援、知的財産に関することを勉強しました。

日本は知的財産を大事にして、法律面で、個人や企業の発明、アイデアを保護しています。中国の知的財産権保護の法的環境の不備に関して、これまで、いろんな問題が指摘されていますが、それは発展途上で未成熟のためだと思います。これから、中国に

も、民族のブランドが出来たら、自分の知的財産も守らなければならないようになって、人々の意識も高まり、法律もどんどん整備されると予想されます。

C. 産業振興機構、JETRO

産業振興機構は地元の産業振興のために、特に中小企業をサポートしています。JETROは外国企業と日本企業の貿易取引拡大など、幅広い活動をしています。両者とも企業支援に全力を傾けていて、地域経済活性化に取り組んでいる専門機関です。

産業振興機構の業務の一つに産官学連携があります。産官学連携というのは企業、官庁、大学が一緒になって、新しい事業に取り込んでいくこと、大学の研究成果と企業のニーズを上手にマッチさせ、製品化を進めていくことです。日本はもう十年間の経験を持っています。今の段階は、大学の特許と企業の要求には大きな差が存在するので、単に特許があって、買うというようなやり方ではもうだめです。企業側で何か困っていることとか、アイデアを求めることに対して、政府はその技術を持っている大学、研究者、あるいは研究室を探して、マッチングをして、企業との共同研究開発を促進していきます。中国は、まだそういう機関がほとんどないので、産学連携も少なく、大学、企業が持っている特許や研究成果を、それぞれが活用し、起業する場合があります。これからは、中国の事情にあった組織が必要です。つまり各大学の研究成果を如何に利用するか、これをリサーチしていつも内容を把握し、企業での活用を推進していく支援機関が必要です。大学と企業の間立って、両者を結ぶ仲人役になればいいと思います。

(3) 企業訪問

研修する間、「環日本海時代の「人財」づくりと「とっとり」発液晶産業の未来」、「境港利用促進懇親会」などの会議、講演に参加し、県庁の職員、産業振興機構、JETROの方に連れられて、多くの企業を訪問しました。県内企業をはじめ、県外の企業も含め、何度も出張し、幅広い分野の企業と接触することができ、企業のことにも研修しました。職員の出張への同行や職員との意見交換などの機会でも、さまざまな経験を通して知識や考えを深めていきました。中小企業支援制度の紹介、企業への聞き取り調査、商工施策を考えさせる商工労働部新規配属職員の研修、企業誘致、海外と関係ある企業や海外進出意欲のある企業との案件発掘、投資貿易促進等、さまざまな内容を目的にした企業訪問を通して、現場見学により企業のことが分かり、商工労働分野の知識を実践によって勉強しました。企業支援制度、中国人の研修生制度、障害者の就職支援制度、人材づくりの研修制度などについて、理解を深めてきました。

その中でも、吉林企業との取引案件発掘のための、JETRO業務随同行の企業訪問は、いろいろ情報が取れ、貿易取引施策を考えさせられました。

訪問した企業は全て中国に工場を持っており、あるいは技術提携でやっているのです。

まず、企業は経営状況、自社が直面する問題を述べました。多くの事業者によると、人民元の持続的な上昇、原材料の値上がり、賃金コストの上昇、招聘の困難、輸出の制約、政策の頻繁な調整が一番の課題です。その上に、電機や水などのエネルギー不足の懸念もあります。特に、新労働法や税務法が改正され、これらの問題はますます深刻化する一方で、コストがさらにあがり、利益は薄くなります。

もちろん、中国で投資するメリットも認められます。開発区で投資する企業に対し、5年間の法人所得税減免措置などの特別な優遇があるため、コストを最小に制限できます。近年、日本の製造業は国内の20分の1とも30分の1ともいわれる安価な労働力を求めて中国大陸に進出し、生産拠点の移転を推進してきました。労務費20分の1～30分の1、水道代10分の1、電力代3分の1といった低廉な生産コストや中国人作業員の2.0を超える視力、勤勉さ、さらに2年ごとに入れ替わることで常に維持される作業員の肉体能力といった面でも考えたら、最大の利益が求められます。

このように中国人作業員は能力的には極めて秀でていましたが、生産開始当初のモラルの低さも指摘され、たとえば工場内でも平気でつばを吐き、仕事でも私語を止めなく、トイレトペーパーは補充するそばから盗まれました。また、優秀な職員の人材確保などの問題にも悩んでいました。そこで工場内での規律確立に乗り出し、日本以上に厳しい品質管理や人事管理を行い、頭脳流失を防ぐため、給与を引き上げたり、生産性を向上するため、モチベーション重視の新しい管理方法を導入したりなどしました。その結果、工場内での規律はあっという間に確立されました。中国人作業員が整然と作業をこなす、技術向上は著しく、半分の作業員はさらにいい利益を出しました。このように、解決策として、マネジメントの面で改善する会社と、一層のコスト削減を図るため、中国西部やタイのアユタヤ、ベトナムなどへ移転する会社もあります。

「企業の困ることに対して、私たちに何ができるかなあ。」私を考えさせました。まず、よりよい投資発展環境を作るべきだと思います。今まで、技術開発の拠点や高付加価値の製品生産を日本に残しておき、日本を研究・開発の拠点、中国を生産の中心にという分業体制に気が付きました。そこで、中国政府は、外資企業のやる気を励ますために、外資独資による経営方式も新しい法律で認めています。マネジメント上、ダイレクトに自社の意思を反映、成果を享受できるようになります。だが、改善すべき点はまだ多いです。私たちが企業誘致する時、PRの不足が感じられます。地方の政策は違うし、重点発展する分野もそれぞれですから、全国の優遇政策をまとめ、分かりやすく説明するサイトや支援機関が必要です。さらに、企業誘致するために、日本と同じようにクラスター産業環境作り、企業の要求に合う実用型人材の育成と道徳教育にも力を入れるべきです。

(4) 見本市見学

私は博覧会事務局に勤めており、展示会などに非常に興味を持っています。「とっとり発地域ブランドフェア 2007～第 13 回とっとり産業技術フェア～」、「中国地域新技術・新工法展示商談会」などの見本市で研修、手伝う経験を通して、望ましい見本市の知識が得られました。中にも、東京ビッグサイトで開催された世界的規模の「国際電子部品商談展」に参加しました。この商談会と同時に、「インターネプコン・ジャパン」など五つの博覧会が開催されていました。それぞれの各分野に関するあらゆる装置、技術、部品・材料が一堂に集まっており、日本あるいはアジア最大の専門技術展で非常に評判がよく、PR 効果も予想以上にあると考えられます。博覧会の運営や管理方法などの専門知識から、会場の案内やサービスまで、いろいろ見て、聞いて、考えて、勉強になりました。帰国後、仕事に役立てられると思います。中国では、近年来、博覧会も国内の新しい産業、発展重点産業として、国や地方政府から援助され、大きく発展しています。博覧会を通して、各国の企業のつながりの土台を作るだけでなく、企業誘致、地方経済の活性化の発展にも大きな役割を果たすように期待しております。ふるさと吉林省で最大規模の展示会である「中国・吉林北東アジア投資貿易博覧会」は、政府が主催するものですが、これからはだんだん民間運営化が進んでいくはずですから、博覧会組織管理や専門人材を育て、関連法律の整備などの分野において、日本などの先進諸国の経験を学ばなければなりません。

(5) 補足研修

担当の方にチャンスを作っていただき、興味のある教育、環境、福祉などの分野についても、具体的な研修ができて幸いでした。日本に来てから、環境のよさに驚きました。普段、周りの人の循環型社会、地球にやさしい意識から職場の節電などの省エネルギー、ごみ分類行動まで、良い影響を受け、環境への関心も高まってきました。また、座学研修にあわせ、公的機関である衛生環境研究所、環境啓発施設、ごみ処理施設、天神川浄化センター、また、グリーン商品生産やリサイクル技術を利用する企業などでの現場実習等も行いました。環境問題を解決するためには、「全世界の人々の環境に関する意識も高めよう、一緒に解決対策を考えよう、世界規模で協力し合って、取り組もう」という三つの段階のように進んでいくべきだと思います。

また、教育委員会で鳥取教育事情を理解した上に、教育現場の東高等学校も見学しました。学校の雰囲気はとてもよくて、勉強の内容も非常に豊かで、実用性もあります。理科系、文科系の基本的な知識はもちろん、貿易などのことも勉強します。しかも、国内のことだけでなく、各国の事情まで授業の内容となっています。国際人材を作るために、中国、韓国、アメリカなど世界多国の学校と連携して、頻繁的に交互訪問し、スポーツ、文化を通じた交流活動を行っています。一番印象深いのは、放課後の部活動を真剣にやっている学生たちの姿です。部活動は生徒の自主性を育む絶好の機会であり、

同時に協調性や忍耐力を培うことができる場です。生徒個々が学習と部活動を自分の責任と判断でバランスをとりながら努力しています。「知識伝達」、「道德教育」、「部活動などの体育」のバランスの取れた教育が実践されており、勉強の価値があると感じました。「人」を原点に、学生の品格を育てるのは、日本の教育の最大の魅力と成功する秘密でしょうか。

(6) 歴史文化研修、社会生活体験

現代日本の社会・文化には、古いものと新しいもの、東洋的なものと西洋的なもの、自然と人工的なものが協調しながら共存しています。例えば、古い寺院と近代的な高層ビルとが隣接して建っていることも珍しくありません。

江戸時代に育まれた文化を代表とする、日本古来の伝統の土壌が、その後入ってきた西洋文明をも柔軟に受け入れてきました。逆に、戦後日本社会の急成長と高度な技術発展は、日本固有の文化を押しつぶすことなく、共存してきたのです。また、自然が豊富で、地形の変化にも富み、四季の移ろいがとても美しいです。四季折々の自然のエキスを吸って花開いた俳句文学は非常にユニークな日本の文化です。

こうしたやまな多様性と奥深い魅力を秘めた日本は多くの外国人を惹きつけています。日本独特のスパともいえる「温泉」、J-POP や日本映画、「舌と目で味わう」といわれるほど美しく繊細な日本料理や、着物（和服）、茶の湯、生け花といった日本文化が好まれ、また柔道、剣道、長刀のような日本の伝統的なスポーツに興味を持っている外国人の方も多いです。

中でも、日本の食、湯文化は、中国と違い、特に私が興味を持っています。遊、祭活動も、とても豊かで、生活の楽しみがいっぱい味わえます。

A. 食文化

日本の食は、「安全・安心」、「ヘルシー」、「高級・高品質」、「スタイリッシュ（美的）」ということで、世界中で人気となっています。日本人は、食品に加えるべき技術を最小限にとどめ、なるべく自然に近い状態で食べるべきだと考えており、刺身や寿司がその代表例です。梅干、納豆、味噌汁なども日本特有の料理だと言えます。また、和食をきれいなお皿の上に丁寧にのせることで、日本料理は単なる食べ物ではなくて、目で楽しむものでもあります。

B. 東京研修旅行

鳥取県で研修を受ける外国人を対象に、毎年研修旅行が行われています。一日目に、水上バスに乗って浅草まで行って、浅草寺を見学し、9月場所の大相撲を見ました。相撲は日本の国技として、日本人の大好きなスポーツです。相撲の世界にひきつけられて

しまい、分からないところやルールなどを聞いたり、日本人と意見交換したりして、相撲自身や力士のスポーツ精神がだんだん分かるようになってきました。夜、品川プリンスホテルに泊まって、そこにある水族館のイルカショーを見ました。音楽と照明に合わせたオリジナルな演出で、迫力のある演技、華麗でかわいいパフォーマンスには大興奮でした。二日目に、秋葉原、東京アニメセンター、六本木を散策し、サントリー美術館も見学しました。また、江戸風鈴作りを体験しました。日本国内の文化・観光施設を幅広く見学し、日本社会への理解を深めることができる研修だと思います。

C. しゃんしゃん祭り

各地に伝わる祭りなどの年中行事や民俗芸能がバラエティに富んでいます。人々は自分のところの文化に誇りを持っています。毎年、各地では、さまざまな盛大な大祭りを行います。鳥取市の代表的な祭りであるしゃんしゃん祭りは、鳥取県無形民俗文化財に指定されている伝統芸能「因幡の傘踊り」を、その特色を生かして、現代風に踊りやすくアレンジした「傘踊り」です。今年行われた第43回の祭りには、知事をはじめ、県庁連の一員として私も参加しました。初めての参加で最初のうちは緊張しましたが、雰囲気にも慣れてくると浴道を埋めた観光客や、市民、帰省客の声援を浴びながら華麗に舞うことができました。

D. 忘年会で温泉体験

一年の終わりに、日本人はかならず忘年会を開きます。反省会のような形式で、新しい一年に向かっての心の洗濯と準備をしますが、中国人は交歓会（古きを送り出し新しきを迎える）を行い、新年の始まりを祝います。今年度の産業開発課の忘年会は山陰羽合温泉・望湖楼で催されました。日本は温泉が多いですが、それぞれ独自の特徴を持っています。羽合温泉は東郷湖畔にあり、山陰八景に数えられる美しい鶴の湖「東郷湖」、望湖楼はその湖上に浮かぶようにそびえる優雅な宿です。そこで、新鮮なあわびが味わえ、職員同士と楽しく交流もでき、特にすばらしい温泉の体験に満足し、素敵な時間を過ごせて感動的な忘年会でした。

(7) 国際交流活動

鳥取県は国際交流に一生懸命に頑張っています。鳥取県と吉林省は、政府間の交流、経済、文化交流など様々な交流を行ってきました。1994年には吉林省から国際交流員が初めて鳥取県に派遣され、現在も継続的に国際交流員や研修生の派遣を受け入れています。また、1995年からは鳥取県職員を吉林省の大学に派遣しています。2001年には自治体国際協力事業（モデル事業）で吉林省松花湖水質調査団を吉林省に派遣するなど、湖の富栄養化調査や水質浄化に関する交流も行われています。また、学術面では鳥取

環境大学と吉林大学が、学術交流に関して相互交流の覚書を交換しています。このように、人材の相互派遣、環境、教育分野での協力をはじめ、経済交流へも取り組んでいます。経済視察団の相互派遣、展示商談会の開催などの活動をしてきました。これまで培った人脈を利用して、企業間の交流も少しずつ増えてきています。IT 技術者の交流から県内企業が吉林省の優秀な人材を採用したり、吉林省内に合弁会社を設立したりするなどの成果も出ています。

北東アジア五カ国の地方政府の首長などが交流協力の増進を目指す「第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」では、鳥取県の平井伸治知事たちが「環境と交流」をテーマに意見交換を行いました。また、「北東アジア経済圏」の提携を強めるために、今年から、中国吉林省、日本国鳥取県、韓国江原道が共同開発プロジェクトを実行することにしました。

私も鳥取に来てから、さまざまな国際交流活動に参加しました。吉林省の随員として、サミットにも参加し、良い経験を積み、勉強になりました。週末には、フェアの手伝い、日本語講座、大山旅行等さまざまな国際交流活動に参加して、まさに鳥取県民の一員になっています。さらに、日本文化を理解するとともに、ほかのたくさんの国の友達もできて、一緒に遊んだり、お互いに聞いて教え合ったり、鳥取での多国文化体験ができる研修生活を楽しんでいきました。

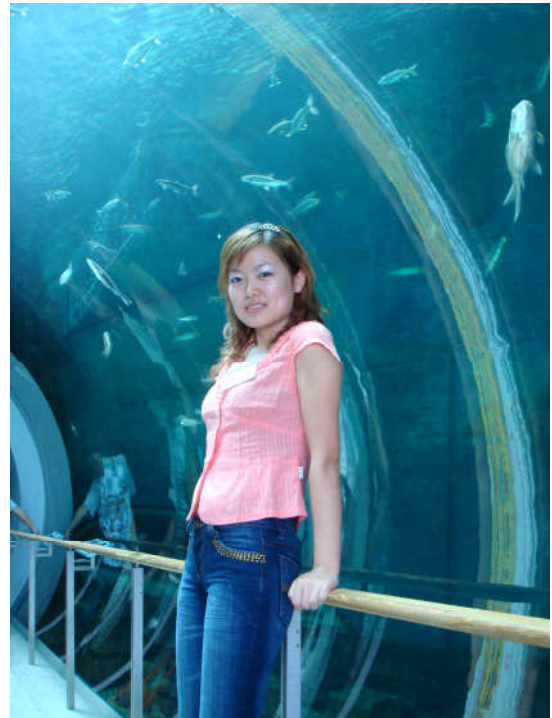
Ⅲ. 終わりに

私は日本で商工行政などの知識を幅広く勉強でき、日本の制度や良い作法を知り、日本社会についての理解を深められたことは、この度の研修で一番の収穫です。それらの貴重な経験がさらにこれからの人生を歩んで行く上での知恵になると思います。帰ったら、私は引き続き博覧会事務局で勤め、ここで学んだ経験を生かし、経済交流の仕事を行います。業務について勉強するとともに、中国が直面する環境問題など、将来的チャンスがあれば、また日本で勉強したい、自分なりの力で貢献したいです。美しい日本で出会った親切な人々をいつまでも記憶に残し、私こそ異文化の壁を乗り越えて、理解、交流を深める架け橋になりたいです。

最後に、研修にご尽力いただいた鳥取県商工労働部、交流推進課、国際交流財団、ジェットロ、産業振興機構、生活環境部、教育委員会、住宅政策課の皆様にご心より感謝申し上げます。特に、研修中にお世話になった私の担当者である商工労働部の山根さん、米山さん、尾崎さんと国際交流財団の大熊さんに改めて厚くお礼申し上げます。長い間お世話になりました。「中国吉林・北東アジア投資博覧会」で皆様と再会できることを心待ちにしております。また、鳥取県と吉林省、日本と中国の交流がますます盛んになっていくこと、両国の国民がいつまでも幸せに生活することをお祈りします。



石山寺見学



琵琶湖博物館見学



比叡山登り



しゃんしゃん祭り



祇園祭



日本語研修最終発表会、クラスで第三名受賞



JIAM で受講



「第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット実務代表者会議」
で吉林省代表団に随行

名 簿

海外技術研修員

年 度	国籍・出身地	氏 名	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和 63)	ブラジル	中原 清治 パウロ	男	農地灌漑	鳥取大学農学部
1989 (平成元)	ブラジル	伊藤 誠 パウロ	男	園芸 (果実処理 技術)	鳥取大学農学部
		山根 猛 セルジオ	男	コンピュータ ・システム	鳥取大学工学部、鳥取県情報セ ンター
1990 (平成 2)	ブラジル	伊藤 万里夫	男	歯科治療	県立中央病院
		河上 リジア ベロニカ	女	理学療法	皆生小児療育センター
1991 (平成 3)	ブラジル	西尾 リナ 佳代子	女	建設設計	米子工業高等専門学校
		菊留 恵 ルシア	女		
1992 (平成 4)	ブラジル	河上 ファビオ 竹一	男	システム工学	鳥取大学工学部
1993 (平成 5)	ブラジル	門脇 エジソン	男	農業分析化学	鳥取大学農学部
		加藤 モニカ みち子	女	グラフィック ・デザイン	米子工業高等専門学校
1994 (平成 6)	ブラジル	細田 眞一 エルシオ	男	果樹栽培	鳥取大学農学部
		米原 ルシアーナ	女	海水魚栽培	県水産試験場
1995 (平成 7)	ブラジル	加藤 ベロニカ あけみ	女	歯科治療	県立中央病院
		河上 マリシー	女	企業経営	鳥取ガス
	中国吉林省	林建華 (リン ジェンホフ)	女	衛生行政	県医務薬事課
	モンゴル中央県	ダグワドルジ バトバヤル	男	地方行政	県市町村振興課
1996 (平成 8)	ブラジル	河井 美智恵 ルシアナ	女	臨床検査	県立中央病院
	中国吉林省	沈在成 (チン ザイチェン)	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ブラジル	西坂 マルリ れいか	女	会計事務	中尾税経事務所
		吉田 ますみ ルシー	女	歯科治療	県立中央病院
	中国吉林省	陳香林 (チン シャンリン)	女	商工行政	県商政課
	モンゴル中央県	バヤルバト ボルドバートル	男	行政一般	県市町村振興課
1998 (平成 10)	ブラジル	中尾 ソランジェ	女	広告一般	デザインスタジオ石山
	中国吉林省	曹仁秋 (ツァオ レンチュウ)	男	商工行政	県商政課
		杜 軍 (ドゥ ジウン)	男	環境行政	県衛生研究所
	モンゴル中央県	バルガルスレン エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
		ツェレンドルジ アリマントヤ	女		
1999 (平成 11)	ブラジル	岩水 ミリアン 恵美	女	食品加工	大伸水産
		高橋 クリスティーナ 理恵	女	広報・報道	新日本海新聞社
	中国吉林省	玉冬輝 (ワン ドンフィ)	男	商工行政	県商政課

1999 (平成 11)	モンゴル中央県	トゥグスオチル バヤルフー	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及センター
		ソソルバラム ウラーンツェグ	女		
2000 (平成 12)	ブラジル	西森 由美香	女	歯科治療	県立中央病院
		山本 リア	女	土木	県管理課
	中国吉林省	崔成岩 (ツウイ チョンヤン)	男	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	エレンダワー ガンボルド	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ナワンバルダン トウムルトヤ	女		
2001 (平成 13)	ブラジル	大原 高取 ビビアネ	女	宣伝・広告	鳥取県産業技術センター
	中国吉林省	呉英蘭 (ウ イェンラン)	女	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	チオイジャムツ バヤラー	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ソンドイ ウランチメグ	女		
2002 (平成 14)	ブラジル	エリカ サナエ カゲヤマ	女	建築	杵村建築設計事務所、米子工業 高等専門学校
	パラグアイ	谷口 まゆみ	女	情報技術	エコシステムクリエイター
	中国吉林省	許長春 (シウ チャンチュン)	男	環境	県衛生環境研究所
		郭大衛 (クオ ターウェイ)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	スレンホルロ ガンチメグ	女	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、八頭 農業改良普及所
		バトジャルガル ツォグトサラ ン	男		
	2003 (平成 15)	ブラジル	エリカ ナオミ カトウ	女	環境
ルシアナ ケラ			女	都市設計	県環境政策課、白兔設計事務 所、鳥取環境大学
中国吉林省		李守祥 (リ シュショウ)	男	環境	県環境政策課、衛生研究所
		朴 晟 (ピャオ シュン)	男	商工行政	県経済交流課
モンゴル中央県		ダシゼバグ チョルーンツェツ ェグ	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 大学農学部
2004 (平成 16)	ブラジル	ジナー サユリ イワミズ	女	建築設計	鳥取環境大学
	モンゴル中央県	オンゴードイ ムンフトヤ	女	農業	農業大学校、園芸試験場
2005 (平成 17)	ブラジル	サンドラ アケミ ナリタ	女	報道	新日本海新聞社等
	モンゴル中央県	ウダバルバダム エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
2006 (平成 18)	ブラジル	エリキ フナバシ	男	食品流通	中井酒造株式会社、県市場開拓 監、県文化観光局
	モンゴル中央県	ゲンデンプレブ ガンバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場

中国河北省技術研修生

年度	氏名	性別	研修内容	研修先
1992 (平成4)	臧恩宝 (ズエン エンバオ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
1993 (平成5)	何利華 (ホ リーホァ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
	王 軍 (ワン ジュン)	男		

中国河北省農林漁業研究者

年度	氏名	所属	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和63)	殷録閣 (イン ルーコウ)	水産研究所	男	栽培漁業	栽培漁業試験場
	何建平 (ホー チンピン)	秦皇島市畜牧水産局	男		
1989 (平成元)	閻乃庚 (エン ダイコウ)	農林科学院	男	果樹栽培	果樹野菜試験場
	李光照 (リ グァンジャオ)		男		
1990 (平成2)	焦長明 (チャオ チャンミン)	農林科学院	男	生物工程	果樹野菜試験場
1991 (平成3)	程増書 (チョン ゾンシュ)	農林科学院	男	生物工程	果樹野菜試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)	河北省林業局	男		
1992 (平成4)	張麗潔 (ジャン リジェ)	農林科学院	女	果樹栽培	園芸試験場
	崔 洋 (ツイ ヤン)		男	生物工程	鳥取大学
1993 (平成5)	吐永清 (トゥ ヨンチン)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
	曾憲坤 (ゾン シェヌクウス)	永清県林業局	男	砂地果樹	
1994 (平成6)	高志傑 (ガオ ジジェ)	農林科学院	男	野菜栽培	園芸試験場
	張素芳 (チャン スーファン)		女	土壤肥料	農業試験場
1995 (平成7)	斉秀菊 (チィ シウジュ)	農林科学院	女	野菜病害防除	園芸試験場
1996 (平成8)	高林森 (ガオ リヌセヌ)	農林科学院等	男	甘柿栽培	園芸試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)		男	花き栽培	
	溢春秀 (イ チュヌシウ)		女		
	及 華 (ジィ ホァ)		女		
1997 (平成9)	孫嵐国 (スヌ ラヌグオ)	農林科学院	男	果樹栽培	園芸試験場
1998 (平成10)	楊建波 (ヤン ジェヌボ)	大名県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
1999 (平成11)	姜玉生 (ジャン ユイション)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
2000 (平成12)	李克健 (リ コウチン)	曲陽県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
	王明秋 (ワン ミンシュウ)	農林科学院	男	野菜栽培	
2001 (平成13)	馮樹亮 (フォン シュリアン)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2002 (平成14)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2003 (平成15)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場

中国河北省農業研修生・緑化研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1987 (昭和 62)	団長	邱濟民 (テイ ジーミン)	男	果樹栽培	東伯郡関金町 山本守夫氏
	副団長	王国華 (ワン グォホァ)	男	野菜栽培	倉吉市 河本増雄氏
	団員	高延庁 (ガオ イエンティン)	男	果樹栽培	東伯郡東伯町 河本茂氏
		張風栄 (ジャン フォンロン)	男	花き栽培	気高郡鹿野町 今本徹氏
1987 (昭和 62)	団員	王迎濤 (ワン インタオ)	男	果樹栽培	倉吉市 田中秀人氏
1988 (昭和 63)	団長	張連仁 (ジャン リエンレン)	男	果樹栽培	倉吉市 福井光隆氏
	副団長	韓振延 (ハン ジェンイエン)	男		東伯郡関金町 山本守夫氏
	団員	王 強 (ワン チァン)	男		東伯郡赤碕町 石賀昭一氏
		彭進友 (ボン ジンイォウ)	男		倉吉市 松本俊一氏
1989 (平成元)	団長	邢永才 (ジン ヨンツァイ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡中山町 井上智光氏
	団員	梁義春 (リャン イーチュン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井利幸氏
		徐東端 (シュイ ドンドァン)	男	野菜栽培	農業大学校、倉吉市 上村富士雄氏
		蔣喜田 (ジャン シーチァン)	男		農業大学校、東伯郡大栄町 梅津良善氏
1990 (平成 2)	団長	王振一 (ワン ジェンイ)	男	果樹栽培	農業大学校、倉吉市 大野俊一氏
	団員	周延文 (ジョウ イァンウェン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡北条町 石川孝平氏
		劉福辰 (リュウ フウチェン)	男	畜産	農業大学校、東伯郡東伯町 川本正一郎氏
1991 (平成 3)	団長	楊大宇 (ヤン ダユイ)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木初巳氏
	団員	張少飛 (ジャン シャオフェイ)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
		高林森 (ガオ リンセン)	男	イチゴ	農業大学校、気高郡青谷町 田中正人氏
		吳鉄園 (ゴ ティエユァン)	男	果樹 (機械)	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
		席会民 (シィ ホォイミン)	男		農業大学校、八頭郡郡家町 小林洋吉氏
1992 (平成 4)	団長	高玉軍 (ガオ ユイジュン)	男	果樹栽培	農業大学校、米子市 前田貢氏
	団員	謝曉亮 (シェ シャオリアン)	男		農業大学校、西伯郡淀江町 綾木健一氏
		魏建国 (ウェイ ジェングォ)	男		農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		段丙武 (ダァン ピンウ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 岩井宰氏
	胡英輝 (フウ インホァイ)	男	野菜栽培	農業大学校、日野郡溝口町 遠藤達也氏	
1993 (平成 5)	団長	白韶雪 (バイ シャオシュエ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 森田久好氏
	団員	丁振京 (ティン ジェンジン)	男		農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
		魏建秋 (ウェイ ジァンチィウ)	男		農業大学校、東伯郡赤碕町 入江重吉氏
		李志強 (リ ジィチァン)	男		酪農
	李躍進 (リ ユェジン)	男	砂丘園芸	農業大学校、東伯郡北条町 枘田富裕氏	

1994 (平成 6)	団長	張曉義 (ジャン シアオイ)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
	団員	王 忠 (ワン ジョオン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
		陳 雪 (チェン シュエ)	男		農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明俊氏
		榮 新 (ルウオン シン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 山根徳之氏
		邵吉祥 (シャオ ジシアン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
1995 (平成 7)	団長	孫風国 (ジュン クニコ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡大山町 提嶋勇治氏
	団員	鮑紀剛 (バオ チークアン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井剛毅氏
		団員	張 威 (チャン ウィ)	男	野菜栽培
	趙志軍 (チャオ チージュン)		男	野菜栽培	農業大学校、米子市 福島康孝氏
	千海良 (ユ ハイリヤン)		男	畜産栽培	農業大学校、西伯郡名和町 谷永憲雄氏
1996 (平成 8)	団長	馬建秋 (マー チェンチュウ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
	団員	曹海峰 (ツァオ ファンフェン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 岩本典行氏
		楊金昭 (ヤン チンチャオ)	男		農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
	団員	崔増力 (ツツイ チェンリ)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 山下正美氏
		馬国平 (マー クオピン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 森本真樹男氏
1997 (平成 9)	団長	劉 偉 (リュウ ウェ)	男	果樹栽培	農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
	団員	張孟傑 (ハン モンジェ)	男		農業大学校、八頭郡八東町 木原剛嗣氏
		祈建増 (チイ ジェンゾン)	男		野菜栽培
		姚聖軍 (ヤオ ションジュン)	男	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏	
		張加国 (ジャン ジリアグオ)	男	甘柿	農業大学校、八頭郡郡家町 野田稔氏
	1998 (平成 10)	団長	張志安 (ジャン チアン)	男	果樹栽培
団員		韓 偉 (ハン ウェイ)	男	農業大学校、西伯郡名和町 米沢誠一氏	
		封志平 (フウ チィピン)	男	甘柿	農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		丁雪京 (ディン シュエジン)	男	野菜栽培	農業大学校、境港市 渡部武治氏
		趙利波 (チャオ リーブウ)	男		農業大学校、西伯郡中山町 秋田実氏
		崔良龍 (ツイ リヤンロン)	男		農業大学校、日野郡日南町 池田尚弘氏
1999 (平成 11)	団長	呉炳奇 (ウー ジュンウエン)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
	団員	高俊文 (カオ ジュンウエン)	男		農業大学校、東伯郡赤碕町 田中哲馬氏
		尼群周 (ニー チュンチョウ)	男	甘柿	農業大学校、東伯郡東郷町 福本巧氏
		武 斌 (ウー ビン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 梅津博文氏
		王海東 (ワン ハイドン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 小前二郎氏
		蔣丙文 (ジャン ビンウエン)	男		農業大学校、倉吉市 大野俊一氏

2000 (平成 12)	団長	魏建国 (ウェイ ジェンゲー)	男	果樹栽培	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
	団員	馬海国 (マ ハイグー)	男		農業大学校、気高郡青谷町 長谷川義博氏
		楊端剛 (ヤン ルイガン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷廣太郎氏
		魯 明 (ルー ミン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡郡家町 毛利克征氏
2002 (平成 14)	団長	王春龍 (ワン チュンロン)	男	林業	鳥取県山林樹苗協同組合、林業試験場
	団員	肖 鋒 (シアウ フォン)	男		
		于小軍 (ウイ シアオジュン)	男		
		王鉄峰 (ワン ティエフォン)	男	畜産	鳥取県畜産振興協会鳥取放牧場河合谷分場、畜産試験場
龔志勇 (グワン チューユン)	男				
2003 (平成 15)	団員	楊耀耀 (ヤン ヤオホイ)	男	林業	鳥取県森林組合連合会、鳥取県森林管理署、鳥取県山林樹苗協同組合
		呉 濤 (ウー タオ)	男		
		柳全芬 (リュ チュワンフェン)	男	畜産	倉吉家畜保健衛生所、鳥取県畜産農業協同組合、大山乳業農業共同組合
		高衆迎 (カオ チュンイン)	男		

中国黒竜江省農業研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1995 (平成 7)	団長	梁桂誠 (リヤン クイチョン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
	団員	牛明君 (ニウ ミンチュン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
		李光印 (リ コワンイン)	男	稲作・果樹	農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明敏氏

韓国江原道行政実務研修生

年 度	氏 名	性別	研修内容	研修先
1993 (平成 5)	崔炯奎 (チェ ヒョンギユ)	男	地方行政	県市町村振興課
1994 (平成 6)	金星鎬 (キム ソンホ)	男	地方行政	県市町村振興課
1995 (平成 7)	李昇燮 (イ スンソップ)	男	行政管理	県職員課
1996 (平成 8)	朴根泳 (パク グンニョン)	男	地方行政	県市町村振興課
1997 (平成 9)	鄭官容 (チョン グァンヨン)	男	行政一般	県環境政策課
1998 (平成 10)	李搨烈 (イ グンニョル)	男	文化行政	県教育委員会文化課
1999 (平成 11)	白昶錫 (ベク チャンソク)	男	行政一般	県市町村振興課
2000 (平成 12)	安鏞辰 (アン ヨンジン)	男	農業行政	県生産流通課
2001 (平成 13)	鄭丞弼 (チョン スンピル)	男	行政一般	県市町村振興課
2002 (平成 14)	金光善 (キム グァンソン)	男	農林行政	県農林水産部
2003 (平成 15)	盧希宣 (ノ ヒソン)	女	農林行政	県農林水産部
2004 (平成 16)	姜熙星 (カン ヒソン)	男	行政一般	県総務部

自治体職員協力交流研修員

年度	国籍	氏名	性別	研修内容	研修先
1996 (平成 8)	ベトナム	グエン キム フォン	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ベトナム	レ バン クイ	男	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	韓国 (江原道)	金東旭 (キム ドンウク)	男	観光行政	県観光課
	マレーシア	モハット ノール ハシム	男	行政一般	県国際課
1999 (平成 11)	韓国 (江原道)	黄貞淑 (ファン ジョンスク)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王 震 (ワン シャア)	女	環境	県衛生研究所
2000 (平成 12)	韓国 (江原道)	全珍杓 (チョン ジンピョ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	趙 青 (ジャオ チン)	女	環境	県衛生研究所
2001 (平成 13)	韓国 (江原道)	金美慶 (キム ミギョン)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王立群 (ワン リチュイン)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2002 (平成 14)	韓国 (江原道)	林泰虎 (イム テホ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王宏偉 (ワン ホンウエイ)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2003 (平成 15)	韓国 (江原道)	元鴻植 (ウォン ホンシク)	男	福祉行政	県福祉保健課
		南鎮宇 (ナム ジンウ)	男	環境行政	県生活環境部
2004 (平成 16)	韓国 (江原道)	姜炯希 (カン ギョンヒ)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	徐 波 (シュウ ボウ)	男	商工行政	県経済交流課
2005 (平成 17)	中国 (吉林省)	李艳苹 (リ イェンピン)	女	商工行政	県経済交流課
	中国 (河北省)	張 碩 (チャン シュオ)	男	環境行政	県環境政策課
2006 (平成 18)	中国 (吉林省)	衣 飛 (イ フェイ)	女	商工行政	県産業開発課

外務省長期青年招聘事業研修員

年度	国籍	氏名	性別	研修内容	研修先
1995 (平成 7)	モンゴル	ヤンザン セレンゲ	女	商工行政	県商工振興課
1996 (平成 8)	ミャンマー	ミン イン セイン	女	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	ミャンマー	コ コ ナイン	男	商工行政	県商政課
1999 (平成 11)	ベトナム	グエン タイ ビン	男	文化振興	県文化振興課
	カンボジア	サーン ピルナー	男	商工行政	県商政課
2000 (平成 12)	ミャンマー	ナン キン ヌ	女	文化振興	県文化振興課

国際協力機構（JICA）自治体連携研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1999（平成 11）	モンゴル（中央県）	バルジンニヤム デルゲルツォグト	女	循環器科医療	県立中央病院
2000（平成 12）	モンゴル（中央県）	イシ オコンチメグ	女	内科・産婦人科医療	県立中央病院
2001（平成 13）	モンゴル（中央県）	ジンベー ビンバジャブ	女	脳神経外科・脳神経 内科医療	県立中央病院
2004（平成 16）	モンゴル（中央県）	スヘー オコンツェツェグ	女	産婦人科医療	県立中央病院

ブラジル県費留学生

年 度	氏 名	出身市町村 (旧 名)	性別	大学等	学 部	専 攻
1965（昭和 40）	山添 勝子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	
1966（昭和 41）	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1967（昭和 42）	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1968（昭和 43）	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
1969（昭和 44）	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
	山添 美智子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	農村社会
1970（昭和 45）	鈴木 陽子	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	建築
	伊木 信子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
1971（昭和 46）	成田 敬	米子市	男	鳥取大学	教育学部	産業概論
	明德 薫	琴浦町 (東伯町)	男	鳥取大学	工学部	地域計画
1973（昭和 48）	加藤 ルイザ	北栄町	女	鳥取大学	教育学部	教育制度
	加藤 輝子 ネリー	(北条町)	女	鳥取大学	教育学部	障害児教育
1974（昭和 49）	平 ネウザ	日野町	女	鳥取大学	教育学部	国際貿易
	松下 美智子 エレーナ	八頭町 (船岡町)	女	鳥取大学	教育学部	社会福祉
1975（昭和 50）	徳尾 リリア 淑子	日南町	女	鳥取大学	医学部	労働医学
	加藤 早苗 アンナ	北栄町 (大栄町)	女	鳥取大学	教育学部	日本語
1976（昭和 51）	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築
1977（昭和 52）	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築
	渡部 輝子	境港市	女	鳥取大学	教育学部	日本文化・教育制度

1978 (昭和 53)	竹内 綾子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
	前原 一禮	米子市	男	鳥取大学	農学部	農業経営
1979 (昭和 54)	平木 育子	米子市	女	鳥取大学	医学部	小児科
	岩本 増典	三朝町	男	鳥取大学	医学部	婦人科
1980 (昭和 55)	高見 ロウルデス 早苗	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	細菌学
	菊留 暁美	三朝町	女	鳥取大学	教育学部	心理学
1981 (昭和 56)	伊藤 清美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	教育学部	栄養学
	山下 八重子	三朝町	女	鳥取大学	工学部	地域計画
1982 (昭和 57)	平木 悦子	米子市	女	鳥取大学	医学部	産婦人科
	孝美 アメリア 美知江	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	電機計算機
1983 (昭和 58)	霜田 美夕起	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	医学部	難聴治療
	橋浦 富代	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	地理学、自然科学
1984 (昭和 59)	岩本 デニゼ	三朝町	女	鳥取大学	工学部	都市計画
	岩本 エリーゼ 明己		女	鳥取大学	医学部	歯科
1985 (昭和 60)	加藤 五月 デイジー	鳥取市	女	鳥取大学	教育学部	現代日本語基礎教 授法
	糸田 クリスティーナ 愛子	若桜町	女	鳥取大学	医学部	ウイルス学
1986 (昭和 61)	関山 理香 ジュリエッタ	鳥取市	女	鳥取大学	医学部	内科学
	長田 デルザ	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	衛生産科婦人科学
1987 (昭和 62)	河崎 幸子 クレミルダ	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	コンピューター
	小村 真澄 マリーザ	伯耆町 (岸本町)	女	鳥取大学	工学部	コンピューター
1988 (昭和 63)	武田 さつき ジュリア	伯耆町 (溝口町)	女	鳥取大学	教育学部	デザイン
1989 (平成元)	川崎 ミチエ クリスティーナ	琴浦町 (東伯町)	女	鳥取大学	工学部	土木材料科学
1990 (平成 2)	吉田 美幸 ミリアン	鳥取市 (福部村)	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	日本の建築技術等
1991 (平成 3)	本橋 敏江 クリスティーナ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	知能情報工学
1992 (平成 4)	清水 ラケル	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	保健体育学
1993 (平成 5)	羽島 月江	米子市	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	デザイン
1994 (平成 6)	淵田 クリスティーナ あゆみ	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	日本語

1995 (平成 7)	清水 デニーゼ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	地質水質学
1996 (平成 8)	西尾 エリーザ 真理	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	工学部	品質管理
1999 (平成 11)	細田 アダウベルト 英二	伯耆町 (溝口町)	男	鳥取大学	地域教育学部	情報処理
2000 (平成 12)	大橋 ルシア みちこ	智頭町	女	鳥取大学	農学部	水質浄化
2001 (平成 13)	井上 友子 マルガリータ	米子市	女	鳥取大学	農学部	農業経営
2003 (平成 15)	カリーナ メグミ ニシオ	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	農学部	食品衛生・畜産物 加工
2004 (平成 16)	ウゴ ヤマシロ	八頭町 (船岡町)	男	鳥取大学	医学部	内科学
2005 (平成 17)	スエナガ アユミ	八頭町 (郡家町)	女	鳥取環境大学	環境政策学科	環境政策
2006 (平成 18)	ルセリア ユミ イヌマル	境港市	女	鳥取大学	地域学部	幼児教育

2007年度（平成19年度）
鳥取県海外技術研修員等
研修報告書

2008年（平成20年）3月

発行 鳥取県文化観光局交流推進課
〒680-8570
鳥取市東町一丁目220
電話 0857-26-7030